



月の満ち欠けに従い、海がその表情を大きく変えることを、今さらながら思い出した。ここは久米島と橋でつながった奥武島。ウミガメも産卵に来る島である。この日はちようと、干満の差が最も大きくなる。大潮の少し前あたり、潮の引いたイノー（※サンゴ礁に広がる浅い海のこと）を、歩いて楽しむことができるのだ。

「潮位の変化で海になったり、干上がったりする場所のことを、潮間帯」と呼びます。ここには不思議な進化を遂げた生き物が多くいて、なかには肺呼吸をする貝もいるんだよ。さあ、どんな生き物がどこに隠れているのか、今から探してみようか」

みんなを先導するのは、「島の学校@久米島」が実施している、イノー散策のインタープリター（※自然のメッセージを伝える人）、小川真司さん。「コレはなあに？」と、参加ファミリーの長女・儀間芹菜ちゃん（小2）が、さっそく何かを発見した。

「クモヒトデの触手だ。岩をひっくり返すと、ほら」

うわっ、驚き！ そこにはたくさんクモヒトデと、いろいろな貝がひそんでいた。「こんな小さな岩の下にも生き物がいっぱい暮らしているんだよ。だから、ひっくり返した岩はそっと元に戻してあげようね」と小川さん。

好奇心旺盛な子どもの目は、まるで高感度のセンサーのようだ。長男の秀得くん（小6）に至っては、ゴツゴツとした岩場をモノともせず潮だまりを移動し、砂の色に同化したハゼや、



島の学校@久米島

その道を知り尽くした島の達人の案内で、素顔の久米島が持つ自然や文化にふれる旅を提唱。今回紹介した自然散策以外にも、古民家で三線（サンシン）を習ったり、シーサーの焼き物を作るなど、プログラム内容は多岐にわたる。事前の相談があれば、可能な限り希望に沿ったアレンジしてくれる、臨機応変な対応ぶりも魅力だ。

☎098-985-3551（前日までに要予約）
■イノー散策（2名から）／大人3150円、子ども2100円、シーカヤック散策（2名から）／大人6300円、子ども4200円

■<http://www.shimanogakko.com/>

